

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・通信）

事業者名：特定非営利活動法人ケア・センターやわらぎ

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画	
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数	実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	6
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	3
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	1
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	3
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1

1 職務の理解

(1) 講義のみ

講義及び演習、視聴覚教材の活用、現場職員の体

(2) 験談を聞く、現場見学等を行い働く現場のイメージをつかんで発表する。

2 介護における尊厳の保持・自立支援

(1) 講義のみ

講義及び演習、自立、自律支援をすること、介護予防、残

(2) 存機能の活用をテーマに事例提示し、グループで話し合い、発表する。

3 介護の基本

(1) 講義及び演習、Aさん(要支援2、認知症、片麻痺、座位保持不可)を中心に、介護に関わる専門職、多職種との連携、チームケアについて各自介護相関図を作る。

(2) 講義のみ

講義及び演習、事故予防、安全対策、感染予防など介護

(3) における安全確保を行う際考えられることをグループで話し合い、発表する。

(4) 講義のみ

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
(3) 同左	3
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
6 老化の理解 6時間	
(1) 同左	3
(2) 同左	3
7 認知症の理解 6時間	
(1) 同左	1.5
(2) 同左	1.5
(3) 同左	1.5
(4) 同左	1.5

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義及び演習、介護保険の申請から利用までのフローチャートを各自で作成する。	
(2) 講義及び演習、障害者総合支援制度の基本的理解をするために、介護給付、訓練等給付の申請から支給決定までのフローチャートを各自で作成する。	
(3) 講義のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義及び演習、失語、聴覚、視覚障害者や認知症に応じた対応方法を理解する為、言語的、非言語的コミュニケーションを体験する。	
(2) 講義のみ	
6 老化の理解	
(1) 講義及び演習、例題テーマを設定しそのテーマに基づいてグループで話し合い、発表する。 (例:退職による社会的立場の喪失感)	
(2) 講義のみ	
7 認知症の理解	
(1) 講義及び演習、認知症の利用者の気持ちを各自考え、発表する。	
(2) 講義及び演習、認知症の原因疾患とその病態を各自整理し、まとめる。	
(3) 講義のみ	
(4) 講義のみ	

別記第1号の2様式

8 障害の理解	3時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関することごとからだのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解	3時間
(1) 同左	1
(2) 同左	1
(3) 同左	1
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10時間
(1) 同左	3
(2) 同左	3
(3) 同左	4
イ 生活支援技術の講義・演習	54時間
(4) 同左	4
(5) 同左	4
(6) 同左	4
(7) 同左	11
(8) 同左	4
(9) 同左	7

8 障害の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 講義及び演習、家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて各自考えて発表する。	
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習、老化、障害を受け入れる過程での感情、生きる意欲の形成、阻害要因をテーマに事例を提示し、グループで話し合い、発表をする。	
(3) 講義のみ	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習、Aさん(要支援2、認知症、片麻痺、座位保持不可)を想定し、グループでAさんと一緒に行う清掃、洗濯、調理を考えてみる。	
(5) 講義のみ	
(6) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた更衣、整容の方法を考えて実技演習をする。	
(7) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた移動・移乗の方法を考えて実技演習をする。	
(8) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた食事の方法を考えて実技演習をする。	
(9) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた入浴・清潔保持の方法を考えて実技演習をする。	

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習) <sup>※</sup> (50～55時間中12時間以内)	
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4時間
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計	(130時間)

(10) 同左	3
(11) 同左	3
(12) 同左	2
(実習) <sup>※</sup> 12時間	
在宅サービス提供現場見学 (6時間×2回)	12
ウ 生活支援技術演習	11時間
(13) 同左	5
(14) 同左	6
10 振り返り	4時間
(1) 同左	3
(2) 同左	1
介護実習	8
ホームヘルプサービス同行訪問	2
計	(140時間)

(10) 講義及び演習、Aさん(同上)の自立に向けた排泄の方法を考えて実技演習をする。
(11) 講義及び演習、Aさん(同上)の安眠の工夫、環境整備について考えて実技演習をする。
(12) 講義のみ
(実習) <sup>※</sup>
各施設で実習を行う。
ウ 生活支援技術演習
講義及び演習、事例(ペーパーシュミレーション)をもと(13)に、グループで基本的情報の整理、アセスメント、介護計画(目標・内容)の立案を作成する。
講義及び演習、Aさん(同上)の事例以外に2つの事例を提示して、一連の生活支援を提供する際の視点、アセスメント、自立に向けた介護過程の展開方法をグループで実技演習する。
10 振り返り
講義及び演習、研修や実習を通して学んだことを振り返り、各自発表する。発表後、根拠に基づく介護についての要点を受講生が各自表にまとめる。
(2) 講義のみ
各施設で実習を行う。
各施設で実習を行う。

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。